



私たちは
ノースネット青少年です。
東近江市青少年育成市民会議能登川支部

あいさつ運動

1日目標
10人以上

入園(学)式、運動会・体育祭、二学期・三学期始業式、卒園(業)式の朝に子どもたちの登園(校)時間にあいさつ運動を実施しています。

『ノースネット青少年』

能登川地区は、東近江市の北部に位置するので「north=ノース」(北)、そして能登川の能(のう)を掛け合わせて「ノース」。同じ目的によってつながっている網状の組織「network=ネットワーク」の「ネット」をそれぞれ取り入れ、平成21年に愛称となりました。

● 運動会・体育祭



そらの鳥こども園 運動会



能登川高校 体育祭

● 3学期 始業日

新年最初の「あいさつ運動」



能登川西小学校



能登川南小学校

● 二十歳のつどい

成人おめでとうございます



能登川コミュニティセンター



ごあいさつ

東近江市
青少年育成市民会議 能登川支部
支部長 田井中 与弘

平素は、青少年育成市民会議能登川支部の活動に深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当支部は、『地域の子どもは、地域で守り育てる』を合(愛)言葉に、次世代を担う青少年の健全育成を目的に「あいさつ運動」を活動の柱として「愛のパトロール」「青少年育成大会」など様々な活動を展開しています。

また、今年度から新たな活動として、「青少年の地域事業参画の普及・推進」を進めてきました。一部の自治会や地域の取り組みでしたが、中・

高学年が地域の行事やイベントのスタッフとして地域の方々との交流や体験により、成長し自立する機会を与えていただけたと思います。次年度も更なる取り組みを期待します。

昨年6月に開催した人権のまちづくり協議会との「合同研修会」は3年目となり重要な活動となりました。また、11月開催の「青少年育成大会」両事業ともに能登川中学校吹奏楽部の素晴らしい演奏は会場に華を添えていただいています。

アフターコロナから1年半が経ちました。しかしながら地域や学校での活動が縮小され、人との繋がりは元の様には戻っていません。子どもたちが生き生きと活躍できる社会になるよう地域の方々のご尽力をよろしくお願いします。

私たちの活動は「地域の力」なくては語れません。どうか市民の皆さまの温かいご支援・ご協力をよろしくお願いします。

● 愛のパトロール



各種団体の皆さまのご協力を得て、パトロールを行っています。「安全・安心のまちづくり」を目指し、今年も引き続きパトロールをしてまいります。

地域の皆さまご協力ありがとうございます。

● こども110番の家



子どもたちが登下校時等において、万が一、危険な状態に陥った時、すぐに避難できる場所として「こども110番の家」を設置しています。



● 電柱幕の交換



古くなった電柱幕の交換をしています。街で古くなった電柱幕を見かけたら事務局までご連絡ください。

● 五峰興風会 様



公益財団法人五峰興風会 様から助成いただき、電柱幕とあいさつ運動啓発ポスター参加賞の購入。また、ふれあいラジオ体操カードを作成しました。

能登川地区

青少年育成大会

～大人が変われば子どもも変わる～

令和6年11月2日（土）、能登川コミュニティセンターホールにおいて、家庭・学校・地域が連携して青少年の健全育成に取り組むことを目的に開催しました。約300名の地域の皆さまにご来場いただき、盛会裏に終えることができました。

開会



司会
能登川中学校3年
野々村 莉子 さん
和 栗 未波 さん



開会あいさつ
青少年育成市民会議 能登川支部長
田井中 与弘



来賓あいさつ
能登川支所長
谷口 哲雄 氏

表彰式

善行者表彰 親切や思いやりのある行い（善行）をした青少年を表彰しました



能登川西小学校
2年 徳永 音 さん、3年 田村 こなた さん

転んでけがをされた方に声をかけ家まで戻って絆創膏を取りにいき手当てをしました。その親切な行動は大変すばらしく、感謝の声が学校へ届きました。



能登川中学校
1年 田中 心織 さん、1年 宮村 千瑚 さん、
1年 藤川 愛徠 さん、1年 伊藤 真菜 さん

垣見ずい道で倒れていた人に話しかけ不安にならないようずっと寄り添っていました。その親切な行動は大変すばらしくお褒めのお言葉が学校へ届きました。

「あいさつ運動啓発ポスター」表彰

能登川中学校の生徒を対象に「あいさつ運動」の啓発ポスターを募集し、今年は243点の応募の中から、最優秀賞、優秀賞、入賞の計10名の入選者を表彰しました。また、奨励賞を含む20点を1階ロビーにて展示しました。



展示の様子



最優秀賞作品は、啓発ポスター用に印刷し各自治会等の掲示板に掲示しています。

青少年の主張作文

能登川地区の4小学校、中学校、能登川高等学校を代表して、家族や友達との関わりの中で感じたことや自分の思い、未来への希望や夢などを発表していただきました。



能登川東小学校
6年
今堀 美音 さん



能登川西小学校
6年
徳永 零 さん



能登川南小学校
6年
野上 華子 さん



能登川北小学校
6年
井ノ口 倅梨 さん



能登川中学校
2年
佐々生 美夢 さん



能登川高等学校
1年
松本 恋 さん

「誰にでも寄り添える未来を」

能登川中学校 2年 佐々生 美夢

私の祖父は認知症を患っています。今は私のことも覚えていませんが、祖父との思い出はたくさんあります。

私がまだ幼い頃、毎日のように隣に住む祖父の家へ行き一緒にお絵かきをしたり、お菓子を食べたり、こたつでトランプをしたり、お馬さんごっこをしたりしてたくさん遊びました。小学生になっても宿題を教えてもらったり、音読を聞いてもらったり、時には書くことに必死になっている私に「目が近すぎる」と叱ってくれたりしました。後からわかったことですが、その頃から祖父は認知症を患っていました。やがて、祖父の認知症はどんどん進行していったのです。祖父は、真夏の暑い日に長袖の服を着るようになったり、自分に少しでも不満があれば、怒りを爆発させ、手をあげるようになったり、何度いってもお風呂に入らなくなったりと大変な生活になっていきました。

ある日の夜7時頃に祖母が、

「おじいちゃん見てへん？」

とあせったように我が家に駆けこんできました。誰も祖父の姿を見ていなかったで慌てて外に出て、家族みんなで手分けして探しました。なかなか祖父は見つからず、警察にも連絡しました。しばらくして、警察から祖父に似た高齢者が愛知川に沿って自転車でフラフラと走っているという通報が数件あったと報告を受けました。それは本当に私の祖父で、事故もなく無事に警察の方で保護されました。家族みんながほっとした事件でした。

この事件を通して認知症の人と生活する難しさや大変さを実感しました。特に共に生活している祖母はたいへんだったと思います。

祖父の認知症の進行によって一つ一つできなくなっていく姿を受け入れなければならないことや、祖父にやらせていいことなのかを判断しなければならないことが祖母にとってとてもつらいことだったと思います。

日本では私の祖父のように認知症患者が行方不明になるという事件が年々増加しています。地域の防災無線でも目撃情報を求める放送が繰り返し流されたり、ニュースでもたびたび報道されたりと社会問題になっています。

私は報道を耳にするたびに、自分のことのように共感し少しでも早く何らかの手立てが立てられないかと感じています。

今後、ますます高齢者の増えていく社会では私たち若者は、どのように高齢者の抱える問題にたずさわっていけばよいのでしょうか。私は祖父との関係を通して、弱い人の味方になれるように勉強し、人の役に立てる人間になりたいと考えるようになりました。そうなるためには将来、さまざまな道があります。認知症の原因をなくす薬を作ったり、患者さんが快適な生活を送れるようサポートしたりする仕事につけたらすごくうれしいです。誰もが幸せになるためにはどうすればよいか、日々考え続けたいです。そしていつか、認知症が治る病気となり、この病気に苦しむ人や家族が減っていけば社会は明るくなっていくと思います。決して本人がなりたくてなっている病気ではないのだから、一人一人が優しく受け止め、寄り添っていける、そんな温かい社会になればいいなと心の底から思います。

祖父は今私を覚えていません。私には後悔があります。中学生になり、祖父母に頼らなくても自分でできることが増え、また部活や勉強で忙しくなり、会いに行く機会が減ってしまいました。昔のように遊ぶことも話すことも少なくなったとき、祖父は入院することになりました。それをきっかけに私のことがわからなくなったのです。忘れてしまう前にもう少し思い出を残せたのではないかと、もう一度だけでいいから私の名前を呼んでほしいです。でも、きっと祖父の中にはたくさんの思い出があり、その思い出の中の小さな私は、元気いっぱい笑顔でいると信じています。だから私は、悲しむことなく、前向きに、誰にでも寄り添える未来に向かって歩んでいきたいです。

「伝えたい！私の将来の夢」

能登川東小学校 6年 今堀 美音

みなさんには、将来の夢がありますか。私には将来の夢があります。私の将来の夢は、介護士になることです。

介護士が将来の夢になったきっかけは、小学校3年生の時の授業で、高齢者のサポートをしている人と出会ったことがきっかけです。その方から、介護士の仕事についてお話を聞きました。その中でも、どんな仕事をするのか、高齢者の方をサポートしている時の気持ちなどのお話を聞いて、私も将来、高齢者をサポートする仕事をしてみたいと思いました。しかし、とても体力を使う大変な仕事でもあると聞き、気持ちがゆれ動きました。

気持ちがゆれていた私でしたが、その時の高齢者をサポートしておられる方のこんな言葉が、私に仕事のみりよくを強く感じさせてくれました。

「大変な仕事だけど、高齢者の方の笑顔を見ることで頑張れる！」

という言葉です。私はその時、心が強く動かされました。その時から、将来高齢者の方をサポートする仕事をしたいなと思いました。

このことをきっかけに、私は本格的に介護士に向けて、自分にできることを考え行動してきました。インターネット

で介護士の仕事についてくわしく調べたり、介護士になれる学校を調べたりしました。調べることでいろいろなことを知ることができました。特に、介護士の仕事には、いろいろな仕事の種類があるということを知ることができました。その中でも、高齢者の方でも楽しめるような遊びやイベントなどの企画を考える仕事をしたいと思っています。その理由は、自分が企画をした遊びやイベントを通して、高齢者の方が笑顔になってくれたら、とても嬉しいと思ったからです。他にも、高齢者が食べられるおいしい食事を作る仕事もあるので、その仕事にも興味があります。

私が介護士になったら、高齢者の方を笑顔にできることをしたいと考えています。将来の夢をもつことで、具体的な目標を立て、その目標に向かって頑張っていこうという思いが生まれます。

みなさんは今、「こんな自分になりたい。」「誰かのために、頑張りたい。」という目標がありますか。私のように、人との出会いがきっかけで、目標ができることもあります。学校でも決まった人ばかりではなく、いろいろな人と過ごすことも大切だと思います。みなさんも、いろいろな人と会話をしたり、何かに取り組んだり、自分からチャレンジしてみてもはどうでしょうか。

「地域の方々のあたたかさ」

能登川西小学校 6年 徳永 零

私の住んでいる伊庭町では、毎朝登校するときに、地域の方々がボランティアで学校までの付きそいをしてくださっています。付きそいをしてくださるのは、小学校にお孫さんのおられる祖父母の方が多いので、私たちは「〇〇くんのおじいちゃん」「〇〇ちゃんのおばあちゃん」と呼んで親しみをもっています。

入学したばかりの1年生のころ、私はまだ通学路に慣れていなくて、歩くのも遅かったけれど、付きそいのおばあちゃんが優しく手をつないで一緒に学校まで歩いてくださっていました。その時、私はとても心強くて、ほっとした気持ちになったのを覚えています。ほかに、毎朝元気にあいさつをしてくれたり、重い荷物があるときは代わりに持ってくれたり、登校中に明るく話しかけてくれたりしながら、付きそいのおじいちゃん、おばあちゃんたちは、私たちを安全に学校まで送り届けてくださっているのです。

テレビで時々、登校中の小学生の列に車が突っ込んだり、交通事故で児童が亡くなったりするというニュースが流れてくることがあります。そんなニュースを見て、私は、いつも付きそいのおばあちゃんたちが「車来てるよー。」と声をかけてくださっていることを思い出します。事故は突然で、さけられないこともあるけれど、大

人の方々の見守りがあるおかげで私たちの安全が守られることもあると思います。付きそいのおばあちゃんたちが、日頃から車に気を付けるよう教えてくださっているから、私たちも自分たちの安全について意識することができるのだと思いました。

私は今6年生になり、おじいちゃん、おばあちゃんたちの付きそいを毎日当たり前のように感じてしまっていたけれど、雨の日も、暑い日も、寒い日も、休まず一緒に学校まで歩くのは、正直とても大変なことだと思います。1年生の時からずっと、そばで登校の様子を見守ってくださっているということは、私たちの六年間の成長を見守ってくださっているということです。そう考えるととても安心するし、毎朝の付きそいにとっても感謝の気持ちがわいてきます。

通学路を歩いていると、地域のいろいろな方が、「おはよう。」「行ってらっしゃい。」と声をかけてくださいます。登校班の中には、あいさつを恥ずかしがったり、声が小さかったりする子がいますが、私は下級生にもお手本になるように、自分から大きな声であいさつをするように心がけていきたいと思っています。

日頃から地域の方々のたくさんのあたたかさに見守られ、支えられて生活していることを、これからも忘れないようにしていきたいです。そして、私も将来自分の住んでいる地域にたくさんの恩返しができる人になりたいです。

「温かい心」

能登川南小学校 6年 野上 華子

みなさんは、人にいやなことを言われきずついたことはありますか。明るい社会を作るためには、思いやりが大切だと思います。

わたしは、学校で友達と意見が合わなかったときに、ケンカになってしまいました。その原因は、おたがいに思いやりがなく、自分の事だけを考えてしまっていたのです。自分の事だけを考えると、相手が悲しむ場合があります。相手がどういう気持ちなのだろうかと考えることが大切です。

相手の気持ちを考えるときは、人とお話をするとき、遊ぶときなどたくさんあります。意見がちがうときには、おたがいに話し合って決めると、良いと思います。

人がきずつくと、つらくなってしまいます。

でも、人がきずつき、なやんでいるという事でそれは思いやりができていません。

では、どうすれば思いやりができるのでしょうか。

ちょっとした軽い気持ちでだれかに言った言葉や行動で悲しんでいる人もいます。そのなやみをかかえていると、やがて大きななやみになってしまうかもしれません。悲しい思いをさせないように、だれかに話すときは相手がどう思うか、つらい思いをしないだろうかと考える必要があります。

人の気持ちを考えるためには、人との関わりが大切だと思います。わたしは、学校に行くときとちゅうで人と出会ったときに、

「おはようございます。」

というようにあいさつをします。そのときには、当たり前のように言っていたけれど、なぜあいさつをするのかと疑問に思いました。

それから、お母さんに聞いてみました。すると、「あいさつをすると、おたがいにうれしくなるんだよ。」

と言っていました。わたしは、あいさつをするときに、意味も分かっていなかったもので、これからは、笑顔で言うことで、気持ち良くあいさつをすることも大切だと感じました。

最近、ニュースで犯罪のことについてよく見るようになりました。なぜ犯罪をしてしまうのでしょうか。ニュースでは、ストレスがたまっていたからという理由でした。わたしは、そこから何かいやなことがあっても相談できず、それがストレスに変わってしまったからだと考えました。

相談をしないで、一人でかかえこんでいたら、つらくなります。その原因が犯罪ではないのでしょうか。

わたしは、今まで思いやりを大切にしてきました。でも、思いやりを大切にしながら生活するのは、むずかしいです。けれど、思いやりをすることでみんなが気持ち良く過ごすことができます。気持ち良く過ごすためには、相手の気持ちを考えて行動すること。これは、どんなときも必要な考えです。今は、相手の気持ちを考えることで社会に出て明るく楽しく生きる大切な一歩だと思います。

「幸せのありがたみ」

能登川北小学校 6年 井ノ口 倅梨

みなさんは今、幸せですか。“幸せ”と言っても、様々な“幸せ”があると私は思います。

例えば、自分の好きなものを食べた時の幸せや、本当にやりたいことができている時の幸せなど、人それぞれの幸せがあると思います。しかし、この世の中には、幸せを感じられない人もいます。私は思います。不安になったり、どうしたらいいのかわからなくなってしまったり、この世の中には幸せとを感じる人と幸せとを感じられない人は同じくらいの人数がいるのかもしれない。

地震や台風での災害や戦争、起きないのが一番いいですが、仕方ないことも中にはあります。さらに、被害が起きて立ち直れない人もいます。しかし、お母さんやお父さん、学校の先生などがいたら少し心強くなりませんか。立ち直れなかった人や前に進めなくなった人たちが「少しずつ立ち直れる」、「前に進める」に変わったら幸せを感じることができる人が増えるのではないのかなと思います。また、自分が幸せと感じられなく

なってしまった時には、友だちや家族を信じて、仲間を頼り、一緒にいる時間を増やすことが幸せになるために大切なことではないのかなと思います。

そこで、私は不幸と幸せの不平等があることを考えてみて感じたことがあります。

私は、今まで幸せを当たり前のように感じていましたが、最高学年になって「誰もが幸せを感じているのではない。幸せを感じるができない人もいる。」とふと思いつくことがあります。

今回、幸せをテーマに作文を書いてみて、友だちや家族を信じる。幸せは当たり前ではないということ。幸せは自分から生み出せることなど大切なことに気づけたような気がします。自分が前に進められなくなった時、このことを思い出して一生懸命乗り越えようと思います。

最後に、一番私がこれからも大切にしていきたいこと。それは、普段の当たり前のことを当たり前と思わないことです。自分は当たり前だと思っていることは、身近な人、もっと大きく言えば世界中の誰かは当たり前ではないかもしれないからです。相手に寄り添いながら過ごせたらいいなと思います。

「能登川高校に入学した理由」

能登川高等学校 1年 松本 恋

私は毎日、湖南市の石部から1時間かけて能登川高校に通っています。能登川高校には同じ中学校出身の人はいません。だから、最初は友だちができるかどうか、通学が上手くいくかどうか不安なことが山積みでした。それでも能登川高校に通学した理由は、滋賀県に一つしかないボクシング部に入部したかったからです。昔からボクシングの試合をテレビで見ている、ジムに通っていた父に教えてもらったりもしていました。

中学校卒業後の進路を考えていた私は、「自分のしたいこと」や「好きなこと」をするために高校に通いたいと考えていました。母は中学1年生の進路学習を終えて、〇〇高校に行こうかな。と何気なく言った私に、「なんで？その高校に行きたいん？」と言いました。その言葉を聞いた私は、中途半端では納得してもらえないなと思いました。〇〇がしたいから、〇〇が学びたいからという自分の進路に自分が興味を持ったり、自分の進路の可能性を広げようとするのが大切だと感じました。

ボクシング部に入部して、7ヶ月がたちました。基礎練習からみっちり行い、今ではやっと様になってきました。ボクシングと聞くと良いイメージを持つ人は少ないですが、奥深くてカッコいいスポーツです。毎日コツコツ努力を積み重ねて先輩方の勇姿を見て練習しています。大変なことも多く、時には逃げたくなることもあります。自分の成長を信じて頑張っています。

私が能登川高校に通うにあたって、たくさんの人に支えてもらっています。毎日、駅まで送り迎えをしてくれる父。私より早く起きて朝ごはんやお弁当を作ってくれる母。早く帰った時に家で待たせてくれる祖父母。私は好きなことをする上で、たくさんの人に味方してもらい有意義な時間を過ごしています。きっと自分一人では、ボクシング部に入部する以前に能登川高校に入学することですら叶いませんでした。そのことを忘れることなく与えてもらった高校生活を思う存分楽しみたいと思います。

能登川高校に入学して、ボクシング部に入部した私は周りから見れば、変わっている人珍しい人なのかもしれません。しかし、自分のしたいことを追いつめてつき進んでいる私をカッコいいと応援してくれる人もいます。私は今後もそういう人でありたいです。周りに流されるのではなく、自分で自分の道を切り開いていきたいと思っています。



演奏会

能登川中学校吹奏楽部による「ディズニーメドレー」や「RPG」、「学園天国」など聴いたことのある曲に会場は自然と笑顔があふれ、楽しい雰囲気になりました。



能登川中学校 吹奏楽部

すてきな演奏を
ありがとうございました



展示 一言メッセージ

能登川地区の4小学校6年生と能登川中学校3年生による、一言メッセージを展示しました。



善行青少年の推薦について

当支部では、下記の事項について他の模範と認められる青少年（個人及び団体）を表彰しています。各小学校・中学校・高等学校等へ推薦依頼をしていますが、地域の皆さまからの推薦も受け付けています。下記に該当するような善行青少年があらわれましたら、事務局までご連絡ください。

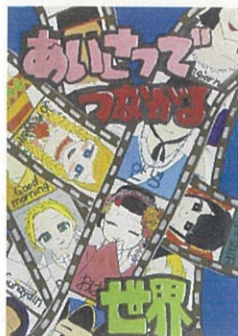
救護活動	人命救助、防災、防犯、事故防止などのための活動および自然災害の発生時に救護活動に尽くしたもの。
環境美化	公共の施設や場所の環境美化に尽くしたもの。
奉仕活動	奉仕活動やボランティア活動に尽くしたもの。
地域活性化	地域住民、地域事業の交流を積極的におこない地域の活性化に尽くしたもの。
その他	賞賛に価する善行のあったもの。

令和6年度 「あいさつ運動」 啓発ポスター入賞者

順不同

受賞者一覧

最優秀賞



1年 追川 佳澄さん

優秀賞



2年 大橋 彩乃さん



3年 奥谷 啓生さん



3年 西澤 功琥さん

入賞



1年 森 晃成さん



2年 山本 真衣さん



3年 久保田 悠楓さん



3年 園林 愛珠さん



3年 山田 深月さん



3年 森 翔太さん

奨励賞



1年 日根野 結菜さん



1年 丸尾 優奈さん



2年 谷澤 あかりさん



2年 永吉 栞奈さん



2年 宮坂 陸さん



3年 小島 咲葵さん



3年 塚本 仁菜さん



3年 須賀 花華さん



3年 今堀 鳳愛さん



3年 中村 向葵さん

※最優秀賞作品は、啓発ポスター用に印刷し各自治会の掲示板等に掲示しています。

【お問合せ】 東近江市青少年育成市民会議 能登川支部 事務局（能登川コミュニティセンター内）TEL. 0748-42-3200 IP. 050-5801-3200